

# 「羊飼いプロジェクト」 -アート・ドキュメンタリーの可能性 - "Project of Shepherd" - A Possibility of Art Documentary-

前田真二郎  
MAEDA Shinjiro

**Abstract** "Project of Shepherd" is an artwork in which panels that depict "animals without heads" are set in public spaces, with specific focus on space in the street. This artwork was originally presented in Dusseldorf, Germany in 1998. Since then this artwork has been carried out in various locations both within Japan and abroad and has received high praise. Using the "Project of Shepherd" artwork as a motif, I made five art documentaries during the period from 1999-2006. Here I explain the outline of and make observations about "Project of Shepherd".

**Keyword** ドキュメンタリー、実験映画、ビデオアート、現代美術、アーカイブ、パブリック・アート、

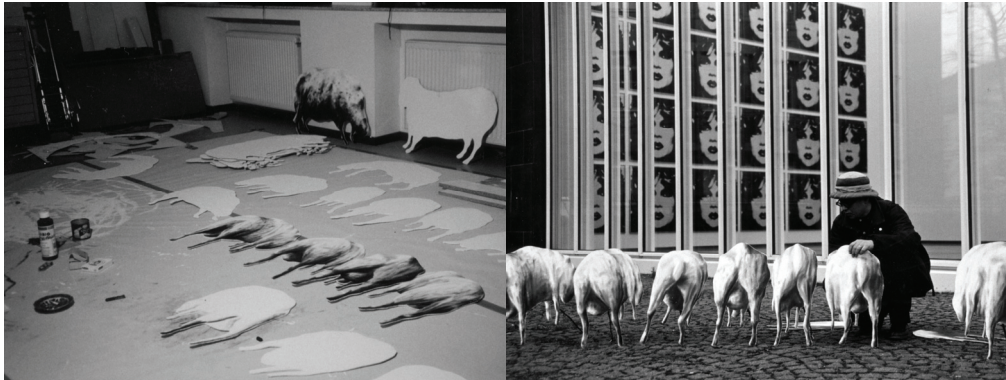
## 1. はじめに

「羊飼いプロジェクト」とは、美術家・井上信太が街頭をはじめとする公共空間に「顔のない動物」を描いたパネルを設置していくアートワークである。1998年にデュッセルドルフ（ドイツ）で発表されたこの作品は、これまで国内外の各所で多数行われ、現代美術の領域で高く評価されてきた。筆者はこの「羊飼いプロジェクト」をモチーフとしたアート・ドキュメンタリーを1999年から2006年の期間に制作した。この5つの映像作品の概要説明と考察を行う。

## 2. 井上信太による「羊飼いプロジェクト」

これまでに多数の絵画を発表してきた井上が、拡張した平面表現として「羊飼いプロジェクト」を構想した。通称「羊」と呼ばれる「顔のない動物」は、切り取った木製パネルに井上がドローイングしたものであり、その形や筆致は1枚として同じものはない。井上が必ず正面を決定して「羊」を並べるのは平面作品であることを意識しているからにほかならない。ある都市がプロジェクトの舞台となる。その都市のランドマークを結ぶことで移動ルートが決まる。「羊」を並べる行為を井上は「放牧」と呼ぶ。通常は5、6匹、多いときは30匹以上の「羊」を、背景との関係を意識しながら並べていく。木製の細い棒と粘着テープによって軽やかに設置し、完成すると素早く撤収して次なる目的地に移動する。国境さえも無視して移動を続ける「羊飼い」のボーダレスな生き方に感銘をうけた井上自身が、この作品を「羊飼いプロジェクト」と名づけたのだった。その「羊」を並べる様子はシアトリカルであり、パフォーマンス作品と解釈されることもある。都市空間における日常風景を変容させる点ではパブリック・アートの文脈に位置づけられ、一連のアクションが人とのコミュニケーションを誘発し、そのプロセスが作品にフィードバックする構造が特徴に挙げられる。長時間にわたって設置される場合はインスタレーショ

ン作品と受け取られることも少なくない。前述した通り、この作品は空間とのセッションを通して新たな平面作品を模索することが狙いとしてあったが、その自由度の高い創作のあり方は従来の表現領域を横断し、ライブ性をともなう平面作品の新領域を発見している。



左：アトリエで制作中の「羊」（1998） 右：放牧中の井上信太（デュッセルドルフ／1998）

### 3. アート・ドキュメンタリー「羊飼いプロジェクト」

#### 3-1 作品における記録の位置づけ

1998 年、ドイツでの発表を終えた井上信太が自作「羊飼いプロジェクト」を紹介する機会があった。井上は空間に並べた「羊」を中判カメラによるモノクロ写真で撮影していた。それは、モノクロで描かれた「羊」と、モノクロの風景が一体化することで「羊」がまさに同一の空間にいるように見える奇妙な写真だった。それらを額装展示したデュッセルドルフでの展覧会は大成功だったようだ。しかし、井上自身は一部の人がそれを写真作品と受けとめたことに問題を感じていた。あくまでも「羊飼いプロジェクト」の記録として見えるように工夫が必要だと感じた井上は、次回は映像による記録を計画中だった。この話を聞いたとき「羊飼いプロジェクト」の記録映像は従来のドキュメンタリーとは違ったコラボレーション・ワークになるだろうと直観した。作品名称に「プロジェクト」という言葉が含まれているが、井上は一連のプロセス全体を「羊飼いプロジェクト」として作品化することを考えていた。ここでの映像はオリジナルの作品に対しての記録という二次的なあり方ではなく、プロジェクトを発表するにあたって必要不可欠な役割を担うことになると思った。



Atelier am Eck-Salzmanbau 展示風景（デュッセルドルフ／1998）

#### 3.2 技術的な背景

90 年代後半、DV 方式によるデジタル・ビデオカメラの登場は映像制作の方法を大きく変化させた。当時のテレビ放送にも対応できる画質を実現したその小型軽量カメラは、少人数による制作を容易にし、あらゆる意味でのコストを抑えることに貢献した。そのことよりも重要な点は、カメラの機動性の向上

が撮影可能となるモチーフやそのとらえ方を拡大させたことだった。PC で使用される映像編集ソフトウェアが急速に洗練し、いわゆるノン・リニア編集というスタイルが普及したのもこの時期だった。フィルム編集をメタファーとした GUI によって、デジタル信号として読み込まれた映像データを直感的に扱えることがその特徴だった。作者が納得するまで試行錯誤ができることは勿論のこと、大量の撮影素材を効率よく管理できることも制作過程において革新的だった。作者の意図どおりに各種の画像処理を施すことができ、音声処理についても従来のビデオ編集とは比べられない自由度が実現していた。これらは当時の映像制作者に、高い精度の編集を可能にする画期的な方法として受け入れられ、現在では標準的な編集スタイルとして定着している。このアート・ドキュメンタリー「羊飼いプロジェクト」の制作は、小型ビデオカメラとノン・リニア編集による映像表現の可能性を実践的に検証することを意識していた。

### 3.3 アート・ドキュメンタリー「羊飼いプロジェクト」概要

＜1999 年から 2006 年の期間に制作した 5 つの映像作品について＞

#### 1) INOUE SHINTA PROJECT OF SHEPHERD 1999



羊飼いプロジェクト in 大阪  
digital / stereo / 1999 / 20' 15"  
監督：前田真二郎  
協力：木村隆志 満江英典  
撮影場所：大阪 京都 岐阜

KIRIN PLAZA OSAKA での大規模な井上信太個展に向けて制作した第一弾。編集作業時に再生速度や色彩を変化させるといった画像処理を行うことで「羊飼いプロジェクト」におけるライブ性や拡張された平面表現の魅力を浮かび上げようとした。また、「羊」をアニメートさせるなど映像独自の表現を盛り込んだ。アトリエでの制作風景を構成に加えたが、ナレーションや音楽を使用しないスタイルはこの一作目に確立した。

#### 2) PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-



羊飼いプロジェクト in 内蒙古  
digital / stereo / 2001 / 22' 30"  
監督：前田真二郎  
協力：ホンゲル  
撮影場所：内モンゴル

本作は「人とのコミュニケーション」をメインテーマに制作した。これまで現代美術に触れたことのない人々の生々しい反応をハンディカムによって活写した。現地の子供達にあげるために、小型プリンターで写真を出力する井上の姿が印象的だった。「モンゴルの草原で羊を並べたい」という井上の衝動からプロジェクトはスタートしたのだが、結果的には普段見ることのできない中国・内モンゴル自治区の風景がドキュメントされることになった。

### 3) PROJECT OF SHEPHERD 2004 in Tokyo



羊飼いプロジェクト in 東京  
digital /stereo / 2004 / 11' 10"  
監督：前田真二郎  
協力：本間無量 上峯敬  
撮影場所：東京

東京に住む人々にとって街頭での撮影現場は見慣れた光景なのだろう。ロケ撮影を邪魔しないように歩く人々の姿は映画のエキストラのように映った。この東京編では観光地や有名スポットを「放牧」の舞台に設定し、モノクロームによる映画的世界を構築することを試みた。展覧会では2台のプラズマ・ディスプレイによるインスタレーションとして発表し、開催中、スパイラル・ガーデンには1万人を超える来場があり好評を博した。

### 4) PROJECT OF SHEPHERD 2004 in Towada



羊飼いプロジェクト in 十和田  
digital /stereo / 2004 / 16' 00"  
監督：前田真二郎  
協力：ナンジョウアンドアソシエイツ  
撮影場所：青森（十和田市）

十和田市の主催するアートイベント ART CHANNEL TOWADA に参加した。ラップトップ型PCによる使い慣れた編集環境を現地に持ち込み、3日間という短期間で制作した。地方都市の風景をアーカイブすることをテーマとして、全編に渡って日時情報を画面に表示させることで、この映像が未来を意識した記録であることを強調させた。



## 5) PROJECT OF SHEPHERD in Ogaki



羊飼いプロジェクト in 大垣

digital / stereo / 2006 / 8' 30"

監督 : H.584

協力 : IAMAS HD Contents Making Project

撮影場所 : 岐阜 (大垣市)

岐阜おおがきビエンナーレ 2006 での発表に向けて制作された本作は、高精細画像方式による映像表現のあり方を研究する IAMAS HD Contents Making Project の撮影チーム、H.584 が撮影と編集を担当した。HD 方式の情報量を意識したダイナミックな構図や長回しによるカットの効果から、従来とは異なる時間感覚を与える作品を完成させた。

## 3.4 考察

近年のデジタル・テクノロジーの発展は、映像を自由自在に加工、合成、生成することを容易にした。そのことを背景とした映像表現が様々な領域で制作された。一方、現代美術の領域ではその反動から実写表現の特徴である記録性が再考され、撮影における身体性や、映像におけるリアリティを主題とする作品が多数発表された。このアート・ドキュメンタリーのアプローチは後者に属している。作品の制作過程においては、シリーズを重ねるごとに編集作業よりも撮影の重要度が高まっていった。対象を観察することからコラボレーションは始まり、撮影が行われることで被写体となる井上の行動も変化していく。そのような関係も含めたプロセスをまるごと情報として記録する映像表現のあり方を模索したのがこの5作品だった。「放牧」する井上は、おどけた道化のような雰囲気があるが、必要以上に周辺の人たちに笑顔をふりまくことはなかった。これは以前に井上が「自分の仕事は大道芸ではない」と語ったことと関係している。井上にとって「羊飼いプロジェクト」は、現代における美術領域の境界を探る試みでもあったに違いない。筆者も同様に「美術」を意識しながら映像表現のあり方を探求した。

## 4. まとめ

アート・ドキュメンタリー「羊飼いプロジェクト」の制作では、5作品それぞれに対して相応しいテーマを設定したことにより、多様な視点から映像表現について考察を深めることができた。作品発表を多数行うことで様々な意見を聞く機会にも恵まれた。前作に対する意見を踏まえて次作に取り組むといった連続性は、シリーズで制作することの意義深い点だった。現在も井上信太による「羊飼いプロジェクト」は継続している。その後、筆者は「羊飼いプロジェクト」から着想を得た新シリーズ「羊飼い物語」を企画し、2009、2010年に2作品を制作した。これは、都市の風景やそこに住む人の声をアーカイブすることを目的とした映画である。厳密なスコアをもとに制作するこの映画シリーズについても可能性を探っていきたい。

## アート・ドキュメンタリー「羊飼いプロジェクト」資料

### <URL アドレス>

羊飼いプロジェクト <http://www.grandsheep.com/>

### <発表データ>

- ・ INOUE SHINTA PROJECT OF SHEPHERD 1999 /KIRIN PLAZA 大阪  
    "INOUE SHINTA PROJECT OF SHEPHERD 1999" ※(1)
- ・ 山形国際ドキュメンタリー映画祭'99 日本パノラマ部門 /MUSE1 (山形 1999)  
    "INOUE SHINTA PROJECT OF SHEPHERD 1999" ※(1)
- ・ KYOTO × AMSTERDAM -New Directions /京都芸術センター (2001)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-" ※(2)
- ・ NHK ART WORKS CINEMA /NHK 長野放送局ハイビジョンシアター (2001)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-" ※(2)
- ・ 眺めの良い部屋～stay with art 期間限定ホテル美術館 /Hotel T`POINT (大阪 2001)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-" ※(2)
- ・ ONE SEANE INOUE SHINTA + MAEDA SHINJIRO /京都市美術館 (2001)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-" ※(2)
- ・ KYOTO × AMSTERDAM -New Directions /Smart cinema (オランダ 2002)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-" ※(2)
- ・ Etats geneaux du film documentaire /ardeche images Lussas (フランス 2002)  
    "INOUE SHINTA PROJECT OF SHEPHERD 1999" ※(1)
- ・ art-life vol.3 オレンジ羊の夏休み /井上信太・井上尚子/Spiral Garden (東京 2004)  
    "INOUE SHINTA PROJECT OF SHEPHERD 1999" ※(1)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-" ※(2)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2004 in Tokyo" ※(3)
- ・ Art Channel Towada Vol.3 /十和田市内 (青森 2004)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2004 in Towada" ※(4)
- ・ 岐阜おおがきビエンナーレ /武徳殿(岐阜 2006)
- ・ サファリパークプロジェクト in 栗東 /栗東芸術文化会館総合 (滋賀 2006)
- ・ Animal Scape /海岸通ギャラリーCASO (大阪 2008)  
    "INOUE SHINTA PROJECT OF SHEPHERD 1999" ※(1)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2001 -TRANCE SHEEP-" ※(2)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2004 in Tokyo" ※(3)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2004 in Towada" ※(4)  
    "PROJECT OF SHEPHERD 2006 in Ogaki" ※(5)